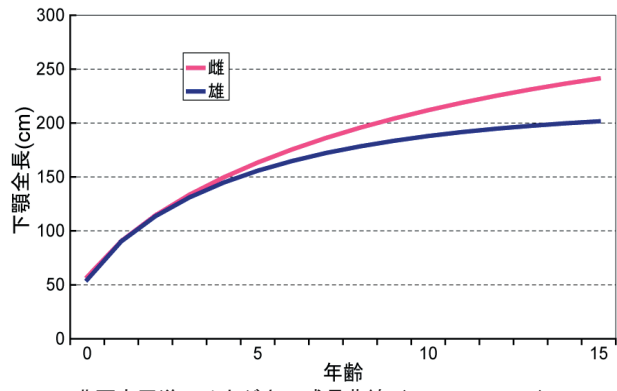


メカジキ 北太平洋

Swordfish, *Xiphias gladius*



管理・関係機関

中西部太平洋まぐろ類委員会 (WCPFC)
北太平洋におけるまぐろ類及びまぐろ類似種に関する国際科学委員会 (ISC)

最近一年間の動き

北太平洋のメカジキ資源については、2007年7月のISCメカジキ作業部会が開催され、本資源の主漁場に於ける資源水準のレビューが行われた。

利用・用途

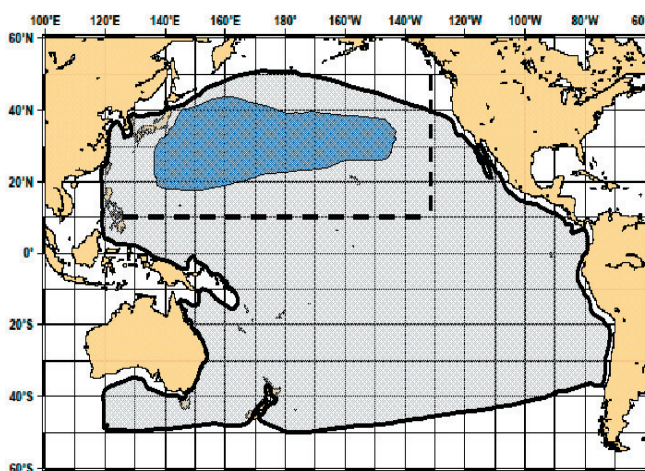
切り身 (ステーキ)、刺身、寿司、煮付け

生物学的特性

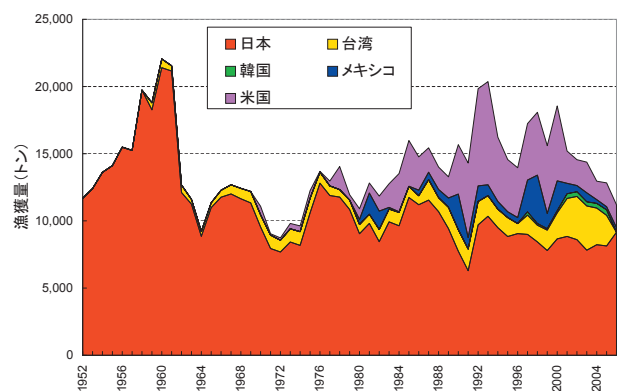
- 寿命：15歳以上
- 成熟開始年齢：3歳
- 産卵期・産卵場：周年、熱帯・亜熱帯水域
- 索餌期・索餌場：秋から冬、温帯域
- 食性：魚類・頭足類
- 捕食者：調査中

漁業の特徴

漁獲の半分以上は、本種を主対象に浅く漁具を設置する夜間のはえ縄で漁獲するが、大目流し網、突きん棒、まぐろ類を狙うはえ縄の混獲でも漁獲する。本資源の主要漁獲国は日本で、1970年代には全体の9割程度を漁獲したが、近年米国や台湾の漁獲増のため、4割程度に落ち込んだ。



太平洋におけるメカジキの分布域 (黒) と漁場 (青)
点線は、資源解析に使用した境界線を示す。



北太平洋における我が国の漁業種別漁獲量

漁業資源の動向

ISCに報告された漁獲量は北太平洋に於けるメカジキ漁獲は、1960年前後に2万トンを上まわったが、その後急激に減少し、1万トン前後に落ち込んだ。しかし1980年代以降米国及び台湾の漁獲増により、全体で1.5万トン以上になった。漁獲統計はまだ不十分なので今後更に整備する必要がある。

管理方策

本資源を対象とした規制処置は現在存在していない。しかしながら、中西部南太平洋のメカジキ資源を対象とした漁業に規制が導入されているので、今後、この規制を逃れるために漁場を北太平洋に移してメカジキを対象とした操業を行う漁船が出てくる事が無いように、漁業の動向を注意深くモニターしていく事が望まれる。

資源状態

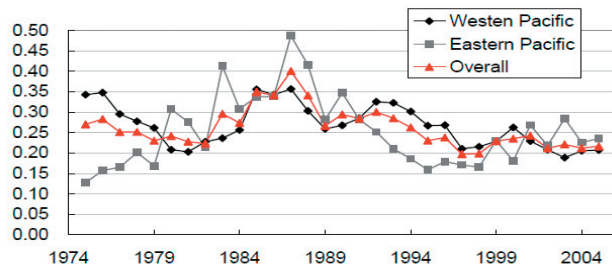
2007年3月に行われたISCメカジキ作業部会には、日本の遠洋・近海はえ縄（中西部北太平洋温帯域）、日本の沿岸はえ縄（北西太平洋）、台湾の遠洋はえ縄（中西部北太平洋温帯域）、ハワイのはえ縄（中部北太平洋温帯域）の4つの漁業のCPUEを標準化して求めた資源量指数が報告された（図7～10）。これらは、カバーする水域、標準化の手法及び結果の信頼性に大きなバラツキがあるものの、いずれも近年の資源量指数のトレンドには大きな変化がなかったことを示していた。これらの結果は、本資源の資源状態が近年安定していることを示していると考えられる。

資源評価まとめ

- 今後漁業の動向を注意深くモニターしていく。

資源管理方策まとめ

- 資源評価はISCにおいて実施
- MULTIFAN-CLにより資源評価
- 資源減少、ただし漁業が資源に与える影響は調査中



日本の遠洋・近海はえ縄漁業のCPUEを標準化して推定した資源量指数 (Ichinokawa and Yokawa, 2007)。赤三角は北太平洋中西部、黒四角は北太平洋西部、灰色四角は北太平洋中部の資源量指数を表す。

メカジキ（北西太平洋）の資源の現況（要約表）

資源水準	中位
資源動向	横ばい
世界の漁獲量 (最近5年間)	11,200 ~ 14,600 トン 平均：13,700 トン
我が国の漁獲量 (最近5年間)	7,800 ~ 9,100 トン 平均：8,200 トン